

不老長寿薬

日本人の平均寿命は、男性78.36歳、女性85.33歳。日本は、世界で最も長生きの国です。ただ、日本の高齢化は、他の諸国に比べ大変スピードが速く、年金や医療保険制度をどのように高齢化にあわせてゆくか、大きな議論になっています。

しかし、本来的には、高齢化、すなわち長寿化は古今東西を問わず人間皆の願いです。日本には100才以上のお年寄りが2万人を超えると聞くと、よーし、自分も頑張ろうと嬉しくなります。

今から2200年前、古代中国で権勢を奮った秦の始皇帝もひたすら長寿を願い、不老長寿の薬を捜し求め続けていたとのこと。司馬遷がまとめた「史記」によれば、徐福という人物が、東方の海の彼方にある「蓬莱山」という山にある不老長寿の薬を手に入れてくると始皇帝に約束、大船団を率いて船出したそうです。中国大陸から見て東方の海の彼方にあるのは勿論日本列島。その日本列島のどこかに不老長寿の秘薬がある、と伝えられていたということは、当時から日本は、この世で一番の長寿国だったのでしょうか？

しかし徐福さん、不老長寿薬を探しに行ったまま、とうとう始皇帝の元には帰りませんでした。その間に、始皇帝は49才の若さで死んでしまいました。中国の歴代皇帝は、みな早死にしているようですが、その死亡原因は不老長寿薬といわれて飲んでいた薬が原因だという話もありますが、皮肉な話です。一方、徐福は日本に住み着いて、中国の優れた技術、文明を伝えた、という「徐福伝説」が日本各地にあるようです。

さて、医学、薬学が著しく進歩した今日にあっても、残念ながら「不老長寿薬」は未だ発見も発明もされていません。しかし、今や、ゲノム科学の時代。人間の体は60兆の細胞で構成されており、その細胞の中にあるDNAという物質が、われわれの命や身体を司っているということがわかりました。そして、人間のDNAの全体構造が、国際的な研究協力の結果、ついに解析されました。これを契機に、DNAに組み込まれているどの遺伝子が、人間の身体の営み（例えば、色々な胃や腸などの臓器を作ったり、身体を動かしたり、考えたり）のどれを支配しているか、研究が急速に進んでいます。

そして、人は何故、老化するのか、どのような仕組みで人間の老化が進み、あるいは老化が調整されているのか、解明されるのも今や時間の問題だそうです。そしてその仕組みが解明されたあかつきには、遺伝子を人工的に操作することによって、人間の寿命は、100才はおろか、120才、150歳と飛躍的に伸びるかもしれない・・・、という人もいます。こんな話を聞いたら、地下の始皇帝、さぞかし残念がることでしょう。

人間がそこまで長寿化することがいいかどうかは別にして、「医食同源」といいますが、健康とは、食事を美味しくいただけること、に尽きます。私たちが望むのは、何と言っても、皆様の創られる美味しいお料理を、いつまでも十分に楽しむことのできるような丈夫な胃や腸を持った「元気なお年寄り」になることです。

高齢化万歳、長寿化万歳です。